

## 21 世紀 COE「京都大学化学連携研究教育拠点」ケミカルバイオロジー・ミニシンポジウム

一味違う化学と生命現象の接点を目指して

### 報告書

#### 集会名

21 世紀 COE「京都大学化学連携研究教育拠点」ケミカルバイオロジー・ミニシンポジウム

一味違う化学と生命現象の接点を目指して

#### 日時

平成 18 年 3 月 15 日（水）、16 日（木）

#### 会場

化学研究所共同研究棟大セミナー室

#### 主催

21 世紀 COE「京都大学化学連携研究教育拠点」

#### 協賛

日本化学会、日本薬学会、高分子学会、有機合成化学協会

#### オーガナイザー

（化学研究所）二木史朗、（理学研究科）杉山弘、（工学研究科）浜地格

#### 内容

ケミカルバイオロジーを志向する京都大学の若手研究者を中心に、学内外の関連分野の研究者に講演を依頼するとともに、研究の方向性や展望に関して討論を行った。同じ大学内であっても、学部やキャンパスや参加する学会が異なるため学内にどのような研究者がいるのか意外に知らないことも多いが、今回は京大内（特に 21 世紀 COE「京都大学化学連携研究教育拠点」関連研究室）におけるケミカルバイオロジー関連の主な研究室の若手研究者に講演を依頼したこともあり、大学内における関連領域の研究者と研究内容の概要がつかめたことが大きな意義の 1 つかと思う。また、年度末の忙しい時期にもかかわらず、参加者は 100 名を超し、討論も非常に活発であった。

#### 講演者と講演タイトル

新規「タグ配列-小分子プローブ」ペアによるたんぱく質の特異的認識とバイオイメージング

王子田彰夫（京大院工）

機能性ミニチュアタンパク質をツールとするケミカルバイオロジー

森井孝（京大エネ研）

機能性フェノールフタレインを用いた呈色型分子認識

椿一典（京大化研）

超微小溶液チャンバーを利用した1分子計測

野地博行（阪大産研）

試験管内で自律的に動作する人工遺伝子回路の構築

木賀大介（東工大院総合理工）

人工生体分子の試験管内進化とその応用

齊藤博英（京大院生命）

ピロール-イミダゾールポリアミドコンジュゲートが示す生物活性

板東俊和（京大院理）

反応性ゲノム標的分子を用いたケミカルバイオロジー

永次史（九大院薬）

リンカー改変型亜鉛フィンガータンパク質の創製

今西未来（京大化研）

たんぱく質によるたんぱく質修飾の構造生物化学

白川昌宏（京大院工）

セレンタンパク質生合成におけるセレン/硫黄識別

三原久明（京大化研）

Grb2 SH2 ドメイン結合阻害剤の開発研究

大石真也（京大院薬）

機能性リポソームを用いた DDS の開発研究 ～効果増強と安全性の観点から～

石田竜弘（徳大院 HBS）

酵素阻害剤からバイオプローブへ

-オキシシンの恒常性をさぐる分子プローブの設計と合成-

平竹潤（京大化研）

化学による植物力の応用を目指して

浅見忠男（理研）

植物の環境応答とかたち作り

柘植知彦（京大化研）

B細胞活性化において Ras シグナル経路が果たす役割の解析

疋田正喜（理研）

新規カルシウムチャネル（TRP チャネル）拮抗剤の開発

清中茂樹（京大院工）

生理活性脂質の細胞膜受容体とプロトンセンサーGPCR

横溝岳彦（九大院医）

細胞分化を指標とした小分子有機化合物のプロファイリング

川添嘉徳（京大化研）

リボヌクレオーム解析を用いた RNA 修飾遺伝子の網羅的探索

鈴木勉（東大院工）

超好熱菌のゲノム情報と遺伝子破壊を利用した新規酵素・代謝系の同定

跡見晴幸（京大院工）

生命機能解明に向けた新規機能性蛍光プローブの論理的開発

浦野泰照（東大院薬）

遺伝暗号を拡張した人工タンパク質合成システムの開発と応用

芳坂貴弘（北陸先端大）

リボソームによる導入が可能な主鎖伸張型非天然基質の合理的設計

山東信介（京大院工）

参加者総数 107 名（内、学外者、22 名）（講演者を含む）